

# 令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立沼田小学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	36.3	56.1	44.3	53.8	48.3
	本年度結果 偏差値平均	59	47.8	57.4	47.7	53.9	54.4
算数	前年度結果 偏差値平均	/	45.3	61.4	53.3	60.5	56.2
	本年度結果 偏差値平均	59.8	52.8	53	41.3	52.4	52.8
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	45	56.5	51.7
	本年度結果 偏差値平均	/	/	56.4	41	54	51.8
全体	前年度結果 偏差値平均	/	40.8	58.8	47.6	57	52.1
	本年度結果 偏差値平均	59.4	50.3	55.6	43.3	53.4	53.6

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	64 (96)	61 (95)
本年度結果 (対県比)	76 (110)	73 (114)

## 2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●評定1・2の児童が8名(21%)いる。評定5の児童が4名(10%)で、評定5の児童がいない学級が3学級ある。</p> <p>●国語では、考えや感想を持って伝え合う(全学年平均52.9%)、目的に応じて工夫して書く(全学年平均62.1%)に課題があった。</p> <p>●算数では、図形領域(全学年平均66.4%)に課題がある。4・5・6年のわり算(平均51.3%)、5・6年の変化と関係領域(平均52.2%)に課題がある。</p> <p>●理科では、4年乾電池と豆電球(40.8%)、磁石の性質(51.9%)、5年天気と気温・雨水と地面(27.7%)物の温まり方や体積の変化(36.7%)、6年物の種類や水の温度と溶ける量(60%)、振り子の動きとそのきまり(68.3%)に課題がある。</p>	<p>●国語では、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する(40.0)、原因と結果など情報と情報との関係について理解している(50.0)、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う(60.0)に課題があった。</p> <p>●算数では、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する(10.0)、正三角形の意味や性質について理解している(30.0)、百分率で表された割合について理解している(40.0)に課題があった。</p>

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が、「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。</p> <p>○全学級で、自力解決の場面で自分の考えを書けるようにする。</p> <p>○全学級で、自分の言葉でまとめや振り返りが書けるようにする。</p> <p>○全学級で、当該学年の漢字・計算が定着できるようにする。</p>	<p>①結果分析シートを活用した、NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②研修による、全教諭での改善計画の共有(児童中心の授業展開・意図的な説明場面の充実、「分からない」の奨励、ノート指導・廊下掲示、予習の取組)</p> <p>③全学級で、帯タイムを活用した校内漢字・計算検定に向けての反復練習及び検定の実施</p> <p>④全学級で、毎週木曜日の帯タイムに、「一〇〇マス作文」の実施</p> <p>⑤全教員による全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握(国・算の課題と改善策を低・中・高でジャムボードに明記し、いつでもそこに立ち返れるよう保存)、課題のある問題の解説及び定着</p> <p>⑥全学級で、アシストシートを活用したドリル学習の実施</p> <p>⑦全学級で、NRTの類似問題を作成・実施</p> <p>⑧あらすじやキーワードの把握・語彙力増加をねらう読書推進</p>	<p>①6月</p> <p>②7月～</p> <p>③基準日と検定日(7月14日、12月14日、3月14日)を明確に示し、それに向けて帯タイムを実施(内容:国算を週2回ずつで内1回は作文)</p> <p>④実力テスト(書く問題)の実施日(9月7日、12月7日)を明確に示し、それに向けて週1回帯タイムで実施(③④とも条件を満たせない児童へは担任外での個別指導の徹底)</p> <p>⑤8月</p> <p>⑥1～4月の週2回ずつ国算を継続する</p> <p>⑦1～4月</p> <p>⑧9～4月</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値向上(全学級で1学期以上)</p> <p>・漢字・計算検定90点以上の児童100%</p> <p>・漢字計算検定初回と検定日の当初比120%以上(NRT評定1・2の児童)</p> <p>・実力テスト(書く問題)0点の児童0人</p> <p>・算数科単元テスト「知識・技能」の平均70点未満0人</p> <p>・算数科単元テスト「思考・判断・表現」の平均50点未満0人</p> <p>・「必読書冊数」達成90%</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級において、肯定的な相互評価を行う。</p> <p>○全学級において、支持的風土の醸成をめざした望ましい学級集団づくりを行う。</p> <p>○全学級において解決する課題を設定し、協力し合う取組を行う。</p>	<p>①学級ごとのQ-U結果分析による、実態把握と改善計画の立案</p> <p>②研修による、全教諭での改善計画の共有・実行</p> <p>③特支校内委員会や研修による、学級や児童の様子との共有</p> <p>④学級ごとのQ-U(2回目)結果分析による、変容の把握</p> <p>⑤帯時間にグループエンカウンターの取組(定期的な実践交流)</p> <p>⑥「わからない」を「わからない」と言い、学び合える授業の実施</p> <p>⑦「成長の木」による、達成感のある全校的取組</p> <p>⑧各学級の実態に合わせた「沼田っ子チャレンジ」による、進捗状況を見える化した取組</p>	<p>①6月</p> <p>②7月</p> <p>③毎月1回以上</p> <p>④1～4月</p> <p>⑤毎週月曜の帯時間に継続(実践を共有フォルダで紹介)</p> <p>⑥毎日</p> <p>⑦毎月更新</p> <p>⑧学年ごとに設定(1～2ヶ月に1回)</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1学期以上)</p> <p>・Q-U2回目の三次支援を必要とする児童の減少</p> <p>・Q-U2回目のクロス集計表における「A」、「B-1」、「B-2」に該当する児童の増加</p>